東京語のゆれに関する研究

言語使用からみた男女差

中　本　正　智

東京語のゆれに関する調査研究は，昭和57年度から同59年度までの３ヶ年間にわたって文部省科学研究費による特定研究の一つとして行なわれ，その成果は，『東京語のゆれ調査報告』（1984）としてまとまった。

これは三ヶ年間の一往の成果をあげることができたけれども，200人調査や1,000人調査のグラフを示したにすぎず，その分析にはなお時間を要する。この研究は，調査法やデータの処理法など，いろいろと問題を残しながらも，日本語の実態を把握するために必要な研究であり，これによって日本語のかかえているさまざまな問題が明らかになっていくものと期待している。

特定研究という組織は，一往終了したものの，研究そのものは進めていかなければならない。

東京語のゆれの研究を深めるためには，他の地域，たとえば西日本の大阪とか，南日本の沖縄とかいった地域と，どのような差を示すか，その比較が必要となる。

そこで東京都立大学の研究室では，独自に研究を継続していくことを確認した。

とりあえず，主要地域としての大阪と沖縄を調査研究中である。その結果がまとまりしだい比較したいと考えている。これによって日本語の言語情況が把握でき，また国語教育の問題点も明らかにすることができるものと期待している。

ここでは，とりあえず，東京語のゆれに関して，その分析の一端をまとめることにした。ご批判とご叱正を仰ぎたい。

日本語の言語使用に男女差があるのだろうか。もしあるとすれば，それはどのようなところに現れているだろうか。

『東京語のゆれ調査報告』（1984）の中から，男女差を示している項目から，これを考察してみよう。

(1)　腹をたてた……に損をした。

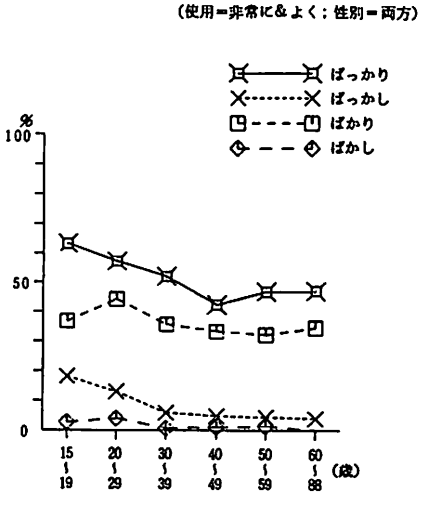
この文脈で「ばかり」をつかうか，「ばっかり」をつかうかについて男女差をみると，男女とも全年層で約50%の「ばっかり」の使用があり，約40%の「ばかり」の使用をしのいでいる。

これが10歳代になると，「ばっかり」をつかう女性が約70%にはねあがって，男性の約50%をしのいでいる。「ばっかり」は10歳代の女性に好まれていることが明らかである。

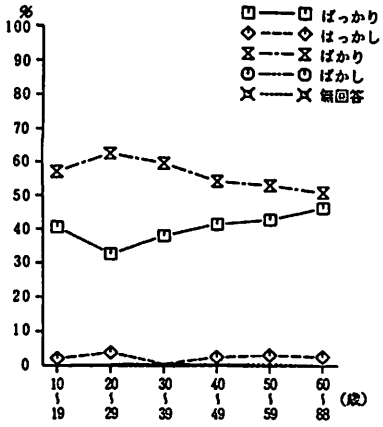
「ばっかり」について文体感をみると，「特になし」が全年層でほぼ60%であり，10歳代になると，「特になし」がさらに増加して約75%まではねあがっている。文体感も使用頻度をささえていることがわかる。

「ばっかり」の俗っぽい意識がうすれて，普通の表現としてつかわれはじめていることを示していて，とくに若い女性にその傾向が強いということである。

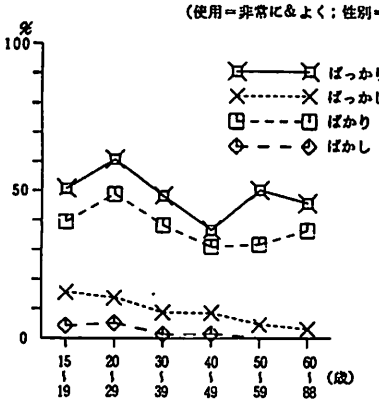
ただし，俗っぽい意識がまったくなくなったわけでなく，採否をみると，「ばっかり」が40%で低く，「ばかり」が55%で高い。



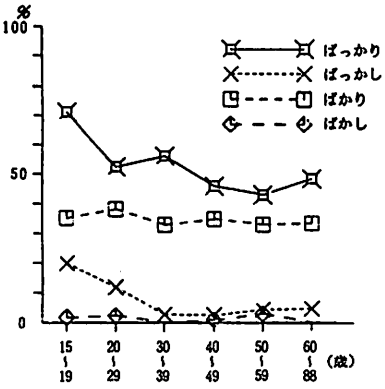
採　否



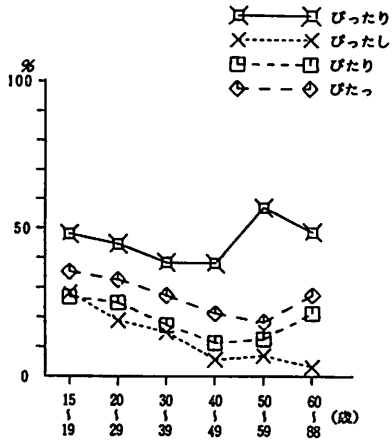
(使用＝非常に＆よく；性別＝男)



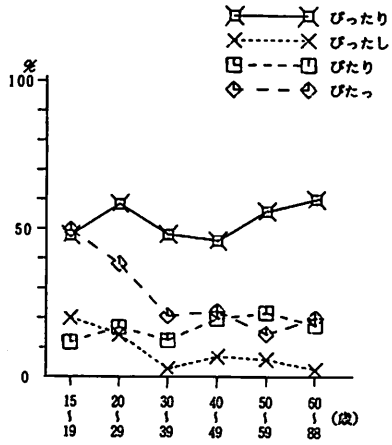
(使用＝非常に＆よく；性別＝女)



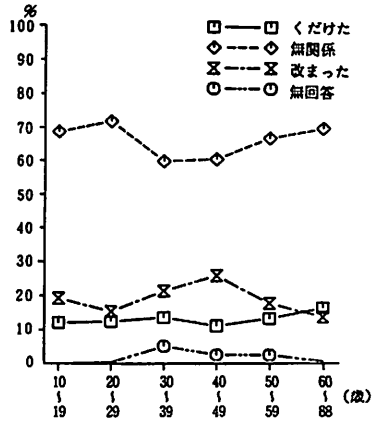
(使用＝非常に＆よく；性別＝男)



(使用＝非常に＆よく；性別＝女)



使用場面

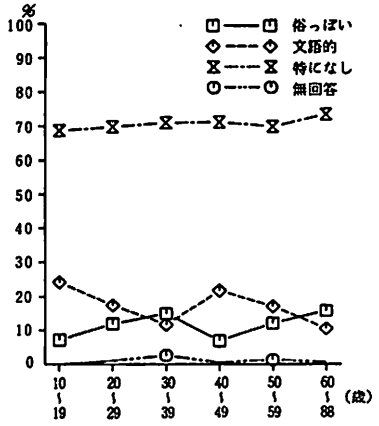


(2)　戸を……としめる。

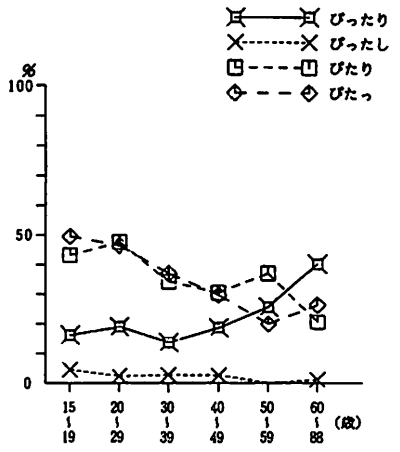
この文脈で「ぴったり」と「ぴたっ」の使用をみると，全体として「ぴったり」が50%で，「ぴたっ」の30%を上回っている。

男女の使用をみると，10歳代の「ぴたっ」の使用が50%まで上昇して「ぴったり」と重なっているのが特

文体感



(使用＝非常に＆よく；性別＝女)



徴である。

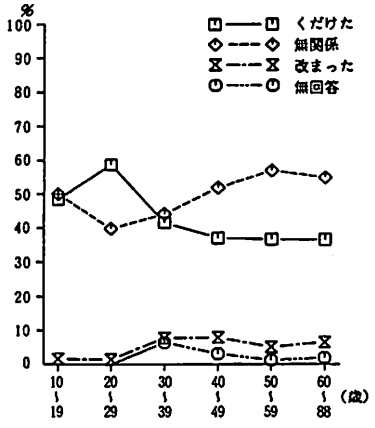
使用場面と文体感をみると,「ぴったり」が普通の表現であるに対し,「ぴたっ」がくだけた俗っぽい表現であるとするのが約40%である。10歳代は，このような場面差や文体感をもたず，普通の表現としてつかいはじめている。

(3) 雨が……とやむ。

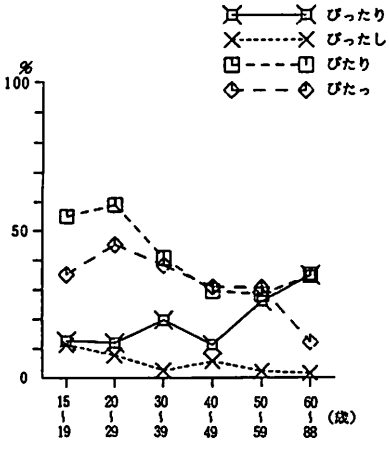
という文脈では,「ぴったり」は頻度が落ちて,「ぴたり」と「ぴたっ」が約50%つかわれる。この場合も女性の10歳代約50%が「ぴたっ」を用い，男性の約35%をしのいでいる。

いずれにあっても，10歳代の女性が「ぴたっ」を好んでいるということである。

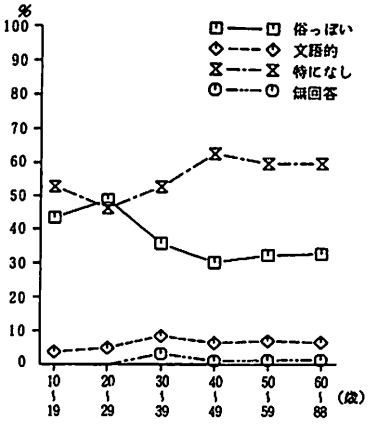
使用場面



(使用＝非常に＆よく；性別＝男)



文体感



(4) それは……おかしい。

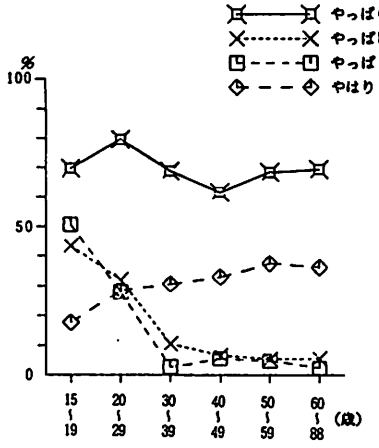
この文脈において，全体の使用傾向をみると，「やっぱり」が70%で高く，「やはり」が30%で低い。「やっぱし」と「やっぱ」は30歳代から高年層では極めて低い。

これは使用と採否が逆転する例であって，採否をみると，「やはり」が55%，「やっぱり」が40%となって逆転している。

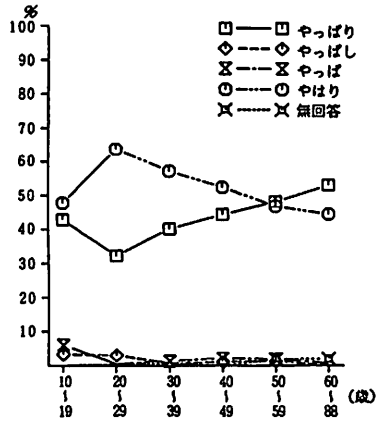
年層の特徴としては，10歳代と20歳代において，「やはり」の使用が激減し，「やっぱし」と「やっぱ」の使用がのびていることである。

「やっぱ」は10歳代でのびているが，男女差をみると，女性が55%であるに対し，男性が45%であって，女性のほうがリードしている。

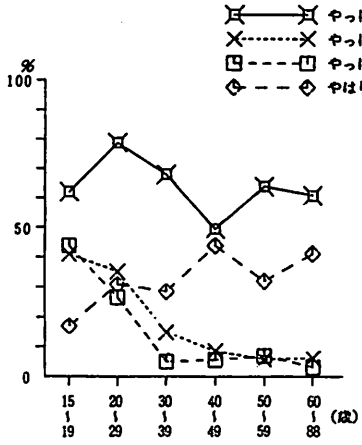
(使用＝非常に&よく；性別＝両方)



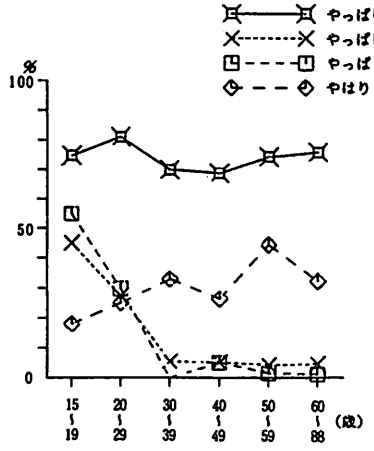
採　否



(使用＝非常に&よく；性別＝男)



(使用＝非常に&よく；性別＝女)



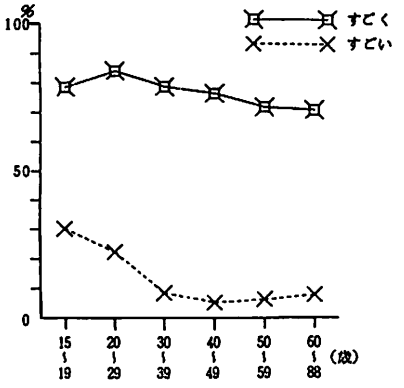
(5) ……きれいだ。

このごろ，「すごく」と「すごい」について，「すごくきれいだ」といわずに，「すごい　きれいだ」という言いかたが増えたようにみえるがどうだろうか。

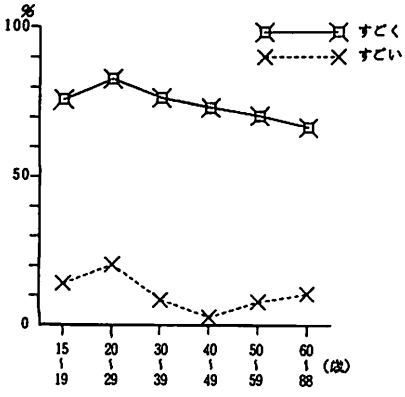
全体として，「すごく」が75%もあり，予想より頻度が高い。「すごい」は全体として10歳代と20歳代に増加の傾向はあるが，ままだまだ20%ていどである。

ところが男女差をみると，10歳代の「すごい」の使用をみると，女性は40%で激増の傾向を示し，男性は15%ていどで，かなり差が出ている。

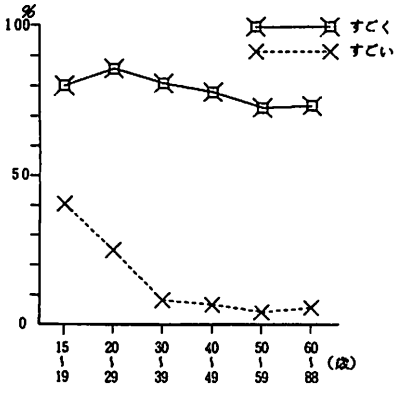
(使用＝非常に＆よく；性別＝両方)



(使用＝非常に＆よく；性別＝男)



(使用＝非常に＆よく；性別＝女)



(6) 足もとが……。

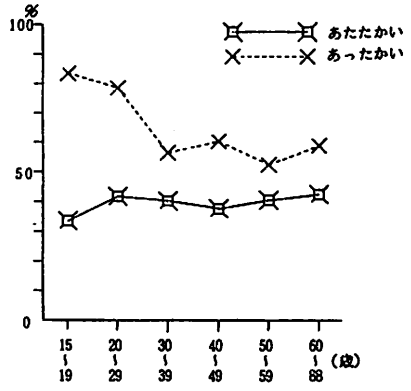
この文脈で「あたたかい」と「あったかい」の使用はどうだろうか。

全体としてみると，使用は「あったかい」が「あたたかい」より優勢である。

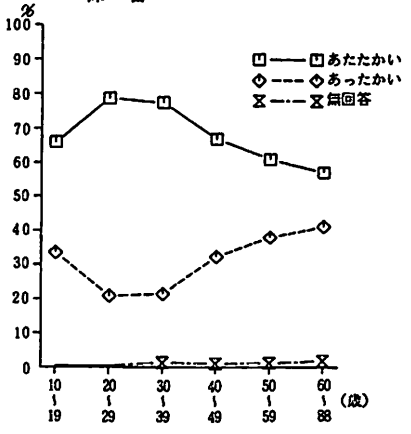
ただし，採否では，この関係が逆転している。

男女差をみると,「あったかい」の使用が10歳代の女性では90%に達しているのに，男性では70%ほどである。10歳代の女性が優勢である。

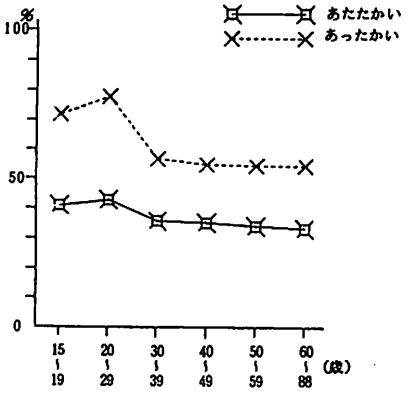
(使用＝常に＆よく；性別＝両方)



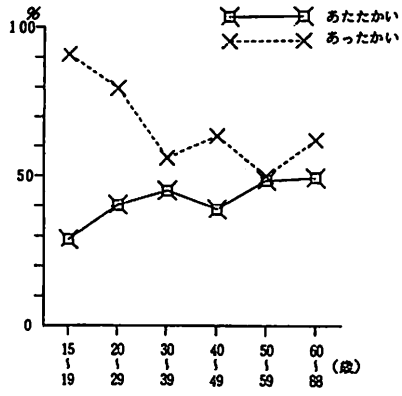
採　否



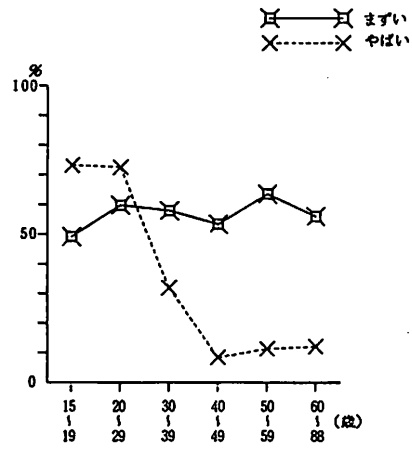
(使用＝非常に＆よく；性別＝男)



(使用＝非常に＆よく；性別＝女)



(使用＝非常に＆よく；性別＝男)



(7) 先生にみつかると……。

この文脈で,「やばい」と「まずい」のどちらをつかうだろうか。

全体でみると,「まずい」が全年層で50%ほどであるのに,「やばい」は高年層が10%足らずで低く，30歳代からの若年層になると，ぐんぐんのびて10歳代で80%まで急上昇する。

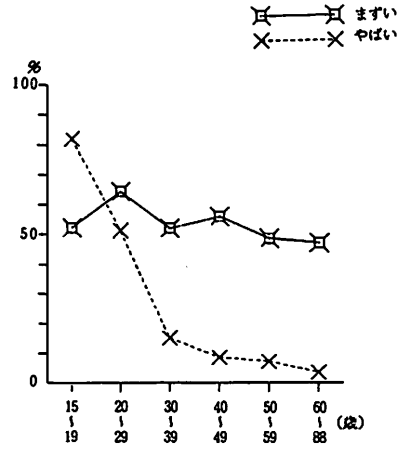
男女差をみると，全体の傾向は同じであるが,「やばい」ののびかたに差がある。

つまり，男性は10歳代も20歳代もほぼ同じに70%であるのに，女性は10歳代が80%で，20歳代が50%である。10歳代の間に大きなひらきがある。

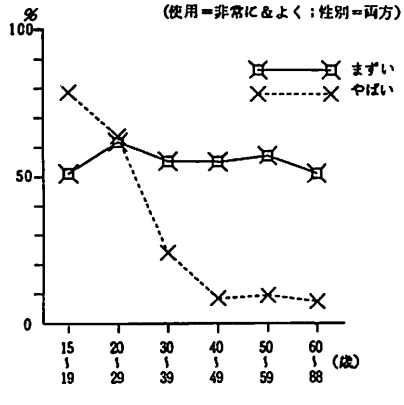
これは「やばい」という語が，くだけた（80%）ところでつかわれ，俗っぽい（80%）という感じがあるせいであろう。

とくに，くだけたなどの場面や俗っぽいなどの語感をともなう語に対して，20歳代の女性が敏感であることを示すものである。

(使用＝非常に＆よく；性別＝女)



(使用＝非常に＆よく；性別＝両方)



(8) それは……ことだ。

この文脈で,「ありうる」と「ありえる」のどちらをつかうだろうか。

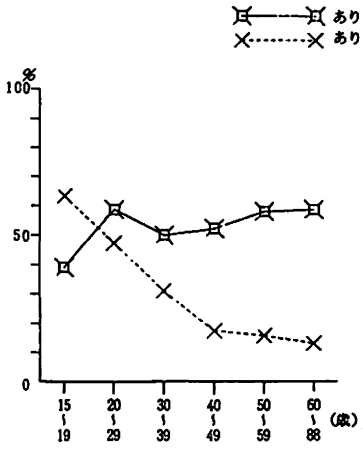
全体としてみると,「ありうる」が50%ほどつかわれていて,「ありえる」が40歳代以上が15%ほどであるのに，年層が若くなるにつれて，ぐんぐんとのび，10歳代では65%までになる。

男女差をみると,「ありえる」の使用は，女性が男性より急激である。

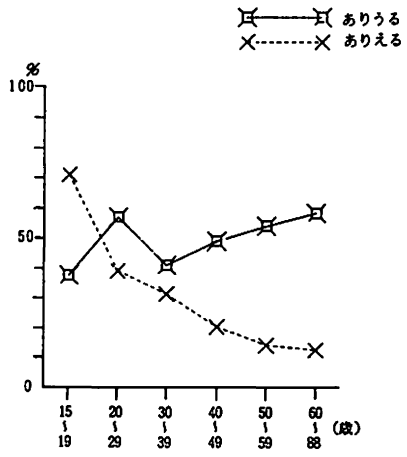
女性は，20歳代の40%から10歳代の70%へ急激にのびているのに，男性は，20歳代でも10歳代でもほぼ50%である。

10歳代の女性は，新語形への適応がはやいことを示している。

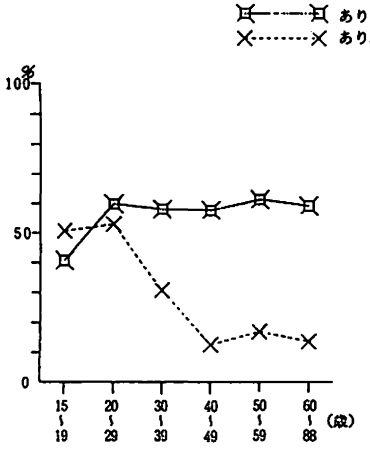
(使用＝非常に＆よく：性別＝両方)



(使用＝非常に＆よく：性別＝女)



(使用＝非常に＆よく：性別＝男)



以上の考察から，新語形をとりいれるのに男女差があって，つぎの

(1) 年層でみると，40歳代以上より若いほうが，新しい語形をとりいれる速度がはやく，しかも若い層の中でも10歳代の女性がもっとも新語形に対して適応がはやい。

(2) 20歳代の女性は，新語形であっても，くだけた場面とか，俗っぽい語感などのイメージをもっている語を避けようとする傾向がみられる。

ということが明らかになった。

この10歳代女性の新語形への適応のはやさは，流行語の受容とも深くかかわってくると考えられる。その関連について調査を深めたいものである。

漢字表記のゆれ

——計る・測る・量る——

篠　崎　晃　一

1．はじめに

本稿は，文部省科学研究費の補助による特定研究「言語の標準化」の中での，国広哲弥・中本正智グループが分担した「用字・用語法のゆれの言語学的分析とそれらの標準の設定」の研究成果の一部である。

ここでは，第２次調査57項目のうちの漢字表記の項目から「ハカル」のゆれについて考察していきたい。

2．調査の概要

調査は東京及びその周辺地区在住者1,000余名を対象に行なった。被調査者の年齢，性別の内訳は次の通りである。